



## 「じゃがたら文のお春あはれと」吉井 勇

吉井勇は明治十九年、東京都生まれ。明治・大正・昭和にわたり、歌人、劇作家、小説家として幅広く活躍した。

明治四十年、「五足の靴」の旅で本県を訪れた後、何度も来崎し二百首にも及ぶ長崎の歌を残した。

イタリア人の父と日本人の母の間に生まれた「じゃがたらお春」は鎖国令によって寛永十六年（一六三九）ジャガタラ（現在のインドネシアの首都ジャカルタ）に追放された。そのお春の境遇に心打たれて詠んだのが次の歌である。

長崎の 鶯は鳴く いまもなほ

じゃがたら文の お春 あはれと

歌碑は昭和二十七年、聖福寺境内に歌人の上野初太郎氏が建立した。五月の除幕式には吉井勇も参加し、献歌を詠じた。

長崎に来る旅人の目にながく残れよと思ふ

碑にむかひて